

単元名「海と川をつなぐ生き物」(8時間)

1 単元設定の理由

海に面していない内陸部に暮らす児童にとって海は日常生活とはかけ離れた存在である。子供たちは日常的には直接的には海と関わらず生活をしているわけであるが、間接的には食生活を始めとして多くの場面で海の恩恵を受けて暮らしている。

そこで、海と私たちの暮らす地域をつなぐ存在である川に着目し、川の調査を通して海と内陸部に暮らす私たちとのつながりを考えることとした。既存の教科の学習とも関連付けて

そこで、海と私たちの地域をつなぐ存在である川とそこに暮らす生き物に着目し、川の調査を通して海と内陸部に暮らす私たちとのつながりを考えることとした。既存の教科の学習とも関連付けて学習を進めることとする。

2 単元目標

新宿区を流れる神田川、神田川の水が流れていく隅田川、東京湾、太平洋と黒潮の関係に迫る。特に水の流れと生物に着目し、鮎やウナギ、ボラなど川と海を生活圏とする生き物の観察を通して体験的に学び、都心部と海とのつながりに迫る。

関連教科・教材(国語科)

3 単元の評価基準

海と自分たちの暮らしを関連付けて考えている。

海と川を行き来する生き物の暮らしを理解し、海洋の良さに気づくことができる。

4 単元の指導計画

時	学習活動	指導上の留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 神田川について知っていることを話し合う。 ・ 川と海を行き来する生き物について知っていることを話し合う。 ・ 神田川の概要を知る。 ・ 川と海を行き来する生き物の概要を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 川と海を行き来する生物の代表として、アユ、ボラ、ウナギを挙げ、事前学習をしておく。 ・ 国語科「ウナギの謎を追って」を並行して学習し、川と海の間について知識と関心を広げる。
2 3 4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 神田川生物生態調査 地域を流れる神田川の生き物を調査し、海洋とのつながりを考える。 生物調査 ゲストティーチャー(新宿区緑の公園課)による神田川の授業 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全に注意する。 ・ 網の使い方、生き物採集のポイントを伝える。
5 6 8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 神田川調査の結果をまとめる。 生物調査で見つけた生き物や神田川に生息している生物の名前や生態を調べる。 生き物と海洋の関係を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ なぜ川と海の生活をおくるのかという観点を意識させる。 ・ 海流(黒潮)の役割を考えさせる。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習報告会を行う。 	
外部連携 / 教材等 新宿区緑の公園課「神田川調査」		